

松本市市民活動

# サポートセンター通信

## NO.26

発行元：松本市市民活動サポートセンター  
〒390-0874 松本市大手 3-8-13  
松本市役所大手事務所 2階  
TEL/FAX：0263-88-2988  
E-mail：support-center@support-center.jp  
URL：http://www.support-center.jp

## みんな集まれ！市民活動ポータルサイト・ブログ集@松本



### 市民活動ひろば

この春、当サポートセンターのホームページに、松本地域の市民活動のWebサイト情報を集めたポータルサイト『市民活動Webひろば』を新設します。

それに先行して、今年度6回開催されたブログセミナーには、計28団体からの参加があり、パソコンを使って、イベントの写真や文章などを投稿し、実際にブログ制作に挑戦してみました。

その成果発表と、リアルタイムでの交流を兼ねて、登録団体によるWebサイトのプレゼン大会「市民活動ひろば」を、右記のとおり開催します。プロジェクターを使った参加団体のサイト紹介と軽食をとりながらの交流会を予定しています。

既にサイトを持っている方の発表も大歓迎！情報の交換と交流を楽しみましょう。



ブログセミナーの様子

◆日時 **平成22年3月27日（土）**  
**午後5時～8時**

◆会場 松本市市民活動サポートセンター  
◆対象 市民活動団体、ボランティアグループ

◆内容 ◇**Webサイト発表会**（17:00～18:30）  
コメンテーター：草間淳哉氏  
（株式会社ウェブエイト代表）

◇**交流会**（18:30～20:00）  
名刺交換

ワゴンカフェ出店（障がい者就労施設）

◆申込 ◇Webサイト発表を希望する方はサポートセンターまでお申し込みください。  
◇発表なしでの参加の方は、直接会場へお越しください。

◆参加費 無料

### フェスタ2010

「市民活動フェスタ2010」開催は**7月24日（土）**  
会場は、「**あがたの森・講堂**」に決定しました！！

2月25日には、登録団体有志による実行委員会も発足。今年のテーマや開催目的から改めて熱い議論を重ねる中でみんなの共通の思いとして辿り着いた目標は「まずは互いを理解し自分たちが楽しむこと」



次回実行委員会は**3月29日（月）開催予定**です。

### しみんサロン

3月14日「子どもたちの放課後」をテーマに、現場からの報告と意見交換をしました。

蟻ヶ崎児童館館長の由井三佐子さんの「子どもたちの自由な発想を大切にしている」というお話と、松本学童クラブの会指導員の齊藤兼さんによるコマ技の実演と「遊びは人から人へ伝わっていく」というお話はどちらも説得力がありました。放課後が子どもたちにとって大切な育ちの時であり、居場所として機能するためには、そこで温かく迎えてくれるお二人のような存在が重要であると感じました。

あのコーナーでは、松本市近郊でさまざまな活動をしている団体をご紹介します！！  
今回、お話をうかがったのは、「たんぼぼの会」と「(財)オイスカ中信支局」の両団体です。

## たんぼぼの会 (子どもを亡くした親の会)

子どもを亡くす・・・思いもよらない現実には直面してしまうこともある。

「たんぼぼの会」は、子どもを亡くした苦しみや悲しみを分かちあう場として2001年に発足した。この会の代表をつとめる山下恵子さんもその経験をされている。

「3回忌までは、あつと言う間なんです、そのあとがね・・・」周囲の人からは、時間が経てば乗り越えた



たんぼぼの会 活動のようす

と思われることが多い。しかしそれは、心の奥に押さえ込めるものでなく、乗り越えることもなく、一生一緒に歩いていくものなのだ。「子どもの話をしたいんです。でも出来る場がない。」話せる場を求め、山

下さんは東京で活動している団体にも通ったが、距離が遠いとそれだけでエネルギーを消耗してしまう。ならば、と自らこの活動を始めた。

「辛さでいっぱいな心は、塞ぎ込むばかりでなく、時には攻撃的にもなります。でも想いを吐き出し、受け止めてもらえると、少しずつ優しさを取り戻し次の段階へ

### ◇連絡先

TEL/FAX 0263-58-4925 (松本短大 山下研究室直通)  
E-mail mic-k.yamashita@matsutan.ac.jp

進めるようになります。人は人に癒されるんですよ。」と山下さんは言う。

また、子どもとの別れの場に居合わせることが多い医療関係者の対応が、親の心情に深く影響することもあるため、看護学科講師でもある山下さんは「研修や講演会などもしていきたい」と考えている。

会の開催は年に4回。発足以来10年、同じペースで続けている。人数が多いときはグループ分けをして、少人数の中で想いを語り合う。初めての方の話は1対1で聴けるよう、訪問や電話などで話す機会を持つ。

自助グループは資金面での援助を受けにくいのが現実。「支援制度が行政にあれば良いのですが・・・」と苦勞の一面を見せながらも「回を重ね、自分の気持ちを受け入れてもらえると、亡くなった子どもが遺してくれた『目には見えない大切な何か』に気づく事ができるようになります。そういう方々の姿を見てると私も癒されます。この出会いも子どもが結びつけてくれた大切なものです。」と語ってくれた。

開催日:2月・5月・8月・11月の第2土曜日  
時間:10:00~12:00  
参加費:500円(通信費、お茶代として)

## (財)オイスカ産業開発協力団 長野県支部 中信支局

◇連絡先 TEL 0263-32-5545 FAX 0263-33-6358  
HP <http://oisca.org>  
E-mail [stone@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:stone@seagreen.ocn.ne.jp)

オイスカ(OISUCA)の団体名の由来は、Organization(機構)Industrial(産業)Spiritual(精神)Cultural(文化)Advancement(促進)の頭文字をとったもの。「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる命の基盤を守り育てようとする世界」を目指し、発展途上国における持続可能な開発及び地球環境保全のための植林や、人づくり、国づくりに協力する国際ボランティア団体である。

創立は昭和36年。本部を日本に置き、世界29ヶ国で活動を展開している。今回は中信支局の事務局長をしている田近勝之さんにお話をうかがった。

現在、長野県内の会員は300人弱、そのうちの約100人がこの中信地域にいる。養蚕技術に長けている宮沢津多登さんは、塩尻市の高校と協力し日本で使われなくなった養蚕器具を整備。フィリピンに送るとともに、養蚕から製糸までの技術支援をした。土地に合った蚕を育てなければ産業として成り立たない。宮沢さんは現地に入り、7年かけて地元合う品種を完成させた。こうして現地の人々は生きていくための糧を自分たちで手に入れられるようになる。オイスカはこのような活動を世界各地で行い、産業を起こすための

支援や指導をしながら、現地の人材育成に力を注いでいる。「金銭的援助、機械を送る等の物質的援助だけでは途上国の発展は望めません。機械を修理する技術を知らなければ、壊れたらおしまいですからね。必要なのは、その地を永続して発展させられる指導者を育てることです。」と田近さん。

また、世界各地で行っている植林活動の事業の一環として、間伐材を利用した「積み木広場」と名付けた活動もしている。子どもたちは、たくさんの積み木で自由に遊んだあと、自然保護の大切さや世界の現状について学習する。田近さんは「木のぬくもりに触れ、日本の子どもたちが自然の大切さについて考え、世界のように身近に感じるきっかけになれば・・・」と考えている。



積み木で遊ぶ子どもたち

### ～イベント情報～

(財)オイスカ長野県支部20周年イベント  
9月7日(火) 長野県松本文化会館 詳細はオイスカまで



松本市ボランティアセンターから ★ご案内★  
「ボランティア活動をするときは保険に加入しましょう!」

3月1日から  
受付中!

松本市社会福祉協議会では、平成22年度分ボランティア活動保険の受付を行なっています。受付会場は松本市社会福祉協議会事務局（松本市総合社会福祉センター5階）のほか、松本市役所大手事務所2階（市民活動サポートセンター）でも行なっています。

**ボランティア活動保険**



**コーヒー1杯分で、一年間の活動をサポート**

- ★保険内容 ボランティア活動中の様々な事故によるボランティア活動者のケガや損害賠償責任（他者にケガをさせてしまったり、物を壊してしまったりなど）などについて補償する保険です。  
ただし自動車による事故はボランティア自身のケガのみが補償の対象となります。
- ★保険料（年間） 1名 A：280円、B：420円（地震等の天災に対応したプランもあります）
- ★補償期間 平成22年4月1日～平成23年3月31日
- ★補償内容（例Aの場合） <死亡>1418万円、<後遺障害>1418万円（限度額）、<入院>7000円/日、<通院>4500円/日、<賠償責任>5億円（限度額）

◎その他の取り扱い保険

**送迎サービス保証**……自動車での送迎サービス中の事故による利用者のケガを補償します。

《問合せ・申込み》 松本市社会福祉協議会ボランティアセンター 電話25-7311

—3回連続企画— その3

**輝く団体、突撃レポート**



～ N P O 法人 ハートネット ～

最終回の今回は、高山市のNPO法人「ハートネット」の施設長である中崎（なかざき）さんと、支援スタッフの老田（おいた）さんにお話を伺いました。

この会の発足以前、代表の大坪さんは経営するクリーニング会社で、13名の障がい者を雇用していましたが、「もっと幅広い支援ができないか」と考えるようになり、NPO法人の認可を受けたそうです。就労移行支援事業所としては岐阜県初の認可でした。現在は、13名の支援スタッフで、19名の利用者を支えています。それぞれの障がいに応じたカリキュラム（就労訓練、社会適応訓練、就職支援活動、個人ケアサポートなど）を組み、提携先の職場で研修をしています。この研修は、利用者がその職場でコミュニケーションを取れるようになることも目的としています。また最近は、「履歴書作成練習」や「模擬面接」も大事なトレーニングに位置づけられています。取材に伺ったときには、古紙を利用したエコバック（スーパーに無償で設置）を作る作業や、布団カバー（観光ホテル等で回収したもの）のクリーニングの作業などをしていました。

こういった取り組みにより、昨春は、地元の製薬会社などに7名の利用者が就職しました。学生の就職難が取り沙汰されている昨今、この数字は“すごい”と感じました。

また、運営面においては、資金調達が厳しい上に、人件費や各就労施設に出かけるためのガソリン代（車両の維持）などがかさみ大変苦慮されているとのこと。それにも関わらず、「利用者の方々に喜んでいただきたいから」と、月1回のパンづくり、日帰り旅行やスポーツ大会など、各種レクリエーションにも力を入れており、この団体の「心」を感じました。

施設長の中崎さんは松本市にも大変興味を持たれ、この取材の最後に「同じような活動をしている団体さんからいろんな情報をお聞きしたい」とおっしゃっていました。

高山市のレポートはこれで最後ですが、両市の活動団体間の交流や、それぞれの市民活動のお役に立てるよう、今後も微力ながらお手伝いしていきます。（坂下）



エコバック作り

《 問合せ 》

〒506-0058 岐阜県高山市山田町863番地22号  
特定非営利活動法人 ハートネット  
（代表者：大坪 徹さん、施設長：中崎 雄二さん）  
TEL：0577-35-9506 FAX：0577-57-7277  
E-mail heart-net@river.ocn.ne.jp

## イベント情報をお寄せください。

センター通信やホームページで、皆さんのイベント情報や募集情報などをご紹介します。  
多くの皆さんから、多くの情報をお待ちしています。



### 第二回 商店街映画祭の開催！

松本市中心商店街や全国の商店街を題材にした映画を市民から募集し、上映します。この映画祭は「ALWAYS 続松本の夕日」と題し、①**全国商店街映画部門** ②**松本商店街映画部門** ③**モバイル映画部門** の3つの部門で行われます。上映作品に出てくる商店街の風景を見て、今まで気がつかなかった街（まち）の魅力を再発見してみませんか？

- ◇期 日：3月22日（月）
- ◇場 所：まつもと市民芸術館小ホール
- ◇入場料：無料
- ◇問合せ：商店街映画祭実行委員会  
TEL：080-2075-0133  
<http://smf-matsumoto.com/>

### 外国由来の子供の日本語学習支援

様々な事情で外国から来ている児童の多くが日本語支援を必要としています。21年11月から松本市日本語支援センターが開設されましたが、課題はたくさん残されています。今回は、日本語支援活動の状況や、最新の考え方について講演をお聞きし、日本語教育の課題についてもご指導いただきます。

- ◇日 時：3月28日（日）  
午後1時30分～4時
- ◇場 所：市民活動サポートセンター
- ◇講 師：社団法人国際日本語普及協会  
関口 明子 氏
- ◇主 催：NPO 法人中信多文化共生ネットワーク「子ども日本語支援チーム」
- ◇申込み：子ども日本語支援センター 川澄  
TEL：0263-25-7143
- ◇締 切：3月20日（土）

### お世話になりました……

市民活動サポートセンターの窓が明るく輝いています。躍動の季節がもうそこまで来ているのです。サポートセンターのスタッフも来年度、新体制になることに合わせ、私は皆さんの一層のご活躍をお祈りしつつ退きます。長い間お世話になり、ありがとうございました。（伊藤一登）

サポートセンター通信をご愛読の皆さま、来月から飛騨高山に戻ります。この1年間大変お世話になりました。北アルプスの向こう側より皆さまのご活躍をお祈りいたします。（坂下信夫）

### サポートセンターからのお知らせ

#### 【やまたみ倶楽部“山行記録展”開催中！！】

NPO法人信州まつもと山岳ガイド協会やまたみが開校している登山学校のOBが集まってできた「やまたみ倶楽部」。発足1年を記念し、活動報告をかねた写真展を当センターで開催しています。“安全・確実・安楽”をモットーに行われてきた月例登山のようすや、景色、花などの写真が展示されています。

- ◇期 間：4月2日（金）まで
- ◇問合せ：佐々木（TEL：0263-82-8210）



#### 【図書コーナー】

当センターのフリースペースにある図書コーナーに、市民活動関連の図書が新たに加われました。約70冊の古本は、株VALUEBOOKSの社会貢献事業「BOOKGIFT PROJECT」により提供していただいたものです。貸し出しはできませんが、当センターにお越しの際は、ご自由にご利用ください。

#### 【机の寄贈】

奈川木工業組合からカラマツ材の長机6台を寄贈していただきました。

このカラマツ材は奈川小中学校の学有林の間伐材を活用して作られました。フリースペースに設置してありますので、大切に使いましょう。



### 編集後記

この通信を担当させていただいて1年が経ちました。たくさんの方と出会い、様々なお話を聞かせていただきました。この経験を糧に、春からは新たな職場で頑張ります。皆さまには大変お世話になりました。ありがとうございました。（K. O）